

聖路加国際病院ブレストセンター（編）

## 乳癌診療ポケットガイド

田村和夫

福岡大教授 臨床腫瘍学・血液学

本書は乳癌患者を実際に診療するにあたってガイドとなる、B6判224頁の白衣のポケットに容易に入るサイズの冊子である。表紙はピンク色でピンクリボンを思わせ、乳癌を扱う本であることを想定させる装丁である。

執筆は中村清吾センター長（現・昭和大学病院乳腺外科教授）を中心とした聖路加国際病院の乳腺科のチームが担当されているが、チームで乳癌患者を診療する視点から記載され、極めて実践的ですべての職種が利用できる内容となっている。

内容を点検してみると、マニュアル本にありがちな know-how ものではなく、疫学、予防、検診から診断・治療まで通常の診療について記載されていることはもちろん、乳癌の生物学的な特徴を理解するためのホルモン受容体、HER2を含む病理組織検査について図入りで概説され

ている。また、まだ日本では一般化していないが、将来導入される可能性のある遺伝子発現解析についても言及している。さらにインターネットを通し患者が入手できる豊富な最新情報に対し、医療者が相談を受けた際に対応ができるよう配慮されている。

治療のセクションでは、乳癌治療チームが bad news を伝え、がん治療（手術、薬物、放射線療法）を実施する際に直面する問題を、副作用、医療費、再発・終末期に至るまで患者が置かれているそれぞれの段階に応じて、適切に治療・マネジメントができるようにチームとしてかわっていくためのポイントがわかるように書かれている。さらに大きな特徴は、ガイドラインの枠を超える最新のものについては第Ⅲ相試験の概要とその結果を紹介し、担当医が考察、決定できるようにしているこ

とである。小冊子にもかかわらず重要な文献がどの章にも取り上げられており、単に執筆者の考えあるいはガイドラインの押し付けになっていないところもよい。

本書は、これを参考に乳癌専門の医療ができ、さらに乳癌診療に対する基本的な考え方も理解できる内容となっているので、乳癌専門の医療者ばかりでなく、乳癌を専門にしない医師やプライマリ・ケアを行う看護師・薬剤師にも推薦できる良書である。病棟・外来の机の引き出し、あるいは白衣のポケットにちょっと入れておくと便利である。

●B6変型/頁224/2010年/定価3,780円（本体3,600円＋税5%）

[ISBN978-4-260-00942-3]

医学書院 刊